

ごとう通信

第274号

令和5年10月1日

ようやく、ようやく暑さが一段落ですかねえ。訪問診療を初めて25年、ずっと外回りをしています。ちよつと違うなあと感じました。以前も猛暑は何度かありましたが、期間が短かったり、雨が降ったりということがありました。今年はただただ暑い日が長く続くという夏でした。

もう少し客観的な事実もあります。自宅の中庭に何年も置いてある植物。多肉植物は葉が黒く焦げて落ちてしまふ坊主状態に、カポックという木の約半分の葉が黒く焦げ貧相な状態に、さらに3鉢あったアイビー(つた)は…全滅。7月に入った時点では緑豊かだった中庭がとても不格好にな

りました。

この夏、ずっと思っていたのは「ゆでガエル」の話。熱いお湯にカエルを入れるとすぐに飛び出してしまふが、水にカエルを入れて徐々に熱くしていくとカエルはお湯の中で死んでしまうという話。環境を壊しているのは間違いなく人間。自分で自分の首を絞めているように感じてしまいます。

さて、先月は第5回タベマチフオーラムを開催しました。足を運んでいただいた皆様、ありがとうございました。第5回とはいえ、コロナで3年ブランクがあり、今回は新たな取り組みがほとんどで、開催前は不安が大きかったのですが、皆様のご



協力もあり、大成功となりました。より有意義な会として次回開催予定です。来年もよろしくお願いいたします。

方言とコミュニケーション

コロナ自体はまだ終息していませんが、社会としては動き始めました。僕も先月から地方出張が始まり、青森、秋田、京都と行ってきました。やはり現地に行って感じるのは地元の方の方言です。日本は広いなあと思います。青森空港から市内までタクシー移動した際の運転手さんはとても温和でフレンドリーな高齢の男性でした。20分ほどの移動時間、ずっと小声でいろいろ話をしていただいていたのですが、一言もわかりませ